

結婚があなたの人生にやってくる



: 目次 :

P 2 初めに。

P 3 第一章 結婚への理想的な流れ

Part 1 誰かを好きになった！ さあどうする？

Part 2 交際期間

Part 3 婚約から結婚まで

P 1 4 第二章 結婚の魅力

Part 1 結婚の目的

Part 2 結婚する事で何を得るのか

P 2 0 第三章 独身という生き方

Part 1 独身の理由

Part 2 使命か、傷か、それとも無責任か

P 2 5 第四章 様々な疑問に答える

問 1 : なぜそこまで恋愛を戒めるのですか。

問 2 : 未信者との結婚をどう思いますか。

⇒未信者を好きになった場合、どうすればいいでしょうか。

⇒未信者に交際を申し込まれた場合、どう対応すべきでしょうか。

⇒未信者とのお見合いを勧められた場合、どう対応すべきでしょうか。

問 3 : 同性婚についてどう思いますか。

問 4 : どうやって結婚相手を探せばいいのでしょうか。

問 5 : 独身の間、心がけるべきことについて教えてください。

問 6 : まだ結婚の準備ができていない時期は、どのように異性と関わればいいのでしょうか。

問 7 : 自分が全く好きでもない相手に結婚を申し込まれた場合、どう対応すべきでしょうか。

初めに。

この冊子は、独身の男女がどのように結婚に向けて進んで行くべきかを考察したものです。前提として、当教会が過去に発行した「恋愛なんてゴミ箱にぼいよッ！」があります。同じ考え方を土台として、この冊子も構成されていますので、合わせて読むことをおすすめします。

「恋愛なんてゴミ箱にぼいよッ！」は下諏訪キリスト教会のホームページからダウンロードできますし、印刷物は無料でお送りしますので、メール等でお申し込みください。

※それぞれが独立した章になっています。目次をチェックし、気になるトピックから自由に読んでください。

※御言葉、また言葉の表現は、新共同訳聖書に準拠しています。

第一章

結婚への理想的な流れ

ペトロ I 1 : 15

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となりなさい。「あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである」と書いてあるからです。

この御言葉に従って、結婚に至るまでにすべきこと、すべきではない事を考えてみましょう。「聖なる」とは、「清い」という以上に、「区別されている」という意味があります。聖なる方に選ばれたのですから、わたしたちも聖なる生き方を願うべきです。わたしたちは世に倣ってはなりません。世とは区別された、聖なる結婚、聖なる男女交際について考えてみましょう。

Part1 誰かを好きになった！ さあどうする？

今、あなたに好きな人がいるかもしれません。

そんなあなたに一言いわせてください。

それは、普通の事です！

つまり、何もおかしいことではなく、全くもって普通の現象なのです。その感情をねじ伏せたり、無かったことにする必要はありません。あるがままの自分の感情を受け止めましょう。誰かを恋い慕う感情は、神があなたに与えたものなのです。

彼女の流れるような黒髪が、いつも思い浮かぶかもしれません。彼が

すれ違いざまに見せてくれた笑顔を思うと、布団に入っても眠気がすつとんでしまうかもしれません。さあ、その感情をどうすればいいでしょう。

まずは、神に感謝しましょう。神はあなたを愛しておられます。あなたが好きな相手に恋焦がれるように、キリストはあなたを花嫁として恋焦がれ、あなたの魂と一つとなることを求めておられます。

雅歌 4 : 9

わたしの妹、花嫁よ。あなたはわたしの心をときめかす。あなたのひと目も、首飾りのひとつの玉も、それだけで、わたしの心をときめかす。

その恋焦がれる気持ちを通して、神は何よりも神の愛、そしてキリストの愛、そして、キリストが命じられたように互いに愛し合う人の愛を知ってほしいと願っておられるのです。

では、具体的に四つのステップで考えてみましょう。

ステップ1：まずはしまっておく。

注意すべきことは、その感情のままにふるまわないということです。まずは、漬物のように冷暗所に保管して、太陽の下にさらさないようにしましょう。つまり、その好きな誰かさんにはもちろん、他の人にとって、気付かれないようにしてみましょう。というのは、恋愛感情というものは、誰か（特に同年代の同性の友達）に話すと、すごくリアルになってしまうものだからです。

「わたし、〇〇〇君の事が気になっちゃうんだよねー」

「あー、わかる！ そうじゃないかって、思ってたんだ！」

「え？ そうなの？」

「そうそう！ お似合いの二人だなーなんて考えてたもん、わたし」

「えー、そうなんだー。何かドキドキしてきちゃったー」

「告っちゃいなよー。絶対いけるってー」

わかってもらえるでしょうか。つまり、淡い恋心程度のものが、友達に煽られることによってまるで「一生に一度の恋」のように強固な感情に変わってしまう可能性があるのです。

なので、その思いは心の内にしまっておきましょう。かなり長い期間しまっておいて、いつの間にか消えているなら、それは一時的な憧れに過ぎなかった、という事です。でも、いつまでも消えず、むしろ熟成されて感情が高まってきていると感じるなら、次のステップに進んでみましょう。

ステップ2：それは、結婚をはっきりと意識した感情だろうか？

それは、ただの恋心でしょうか。それとも、あの人と触れ合いたい、キスをしたい、セックスをしたいという単純な肉欲でしょうか。それとも、この人と結婚して、共に人生を歩みたい、という明確なビジョンをもった感情でしょうか。もし、結婚を意識しない、もしくは意識できない感情であるならば、それは自己中心的な恋心に過ぎないでしょう。つまり、以下のような心です。

わたしはあの人が好きだ

⇒わたしはあの人と楽しい時間を過ごしたい

⇒しかし、わたしはあの人に一生をささげるつもりはない。

結婚とは献身です。自分の為であると同時に、相手に自分の人生をささげることです。その人に自分の人生をささげるつもりがないなら、あなたはその人を愛していないのです。その人と付き合う事を、自分の人生における楽しみとしか考えていない、ということです。

また、今のあなたはどのような生活をしているでしょう。法的に結婚

が許されている年齢でしょうか。また、靈的に、精神的に、経済的に自立しているでしょうか。自己点検しても、他人から見ても、結婚の準備ができていると言えるでしょうか。もし、結婚するにふさわしい状態ではないならば、きっぱりと今の恋愛感情から決別できるように祈り、努力する事をお勧めします。

「何言っているんだ！ 俺はあの人と付き合いたいんだ！ あの人だって、絶対に俺の事が好きなんだ」

と思うかもしれませんが。でも、はっきり言わせてください。それは我がままな行動です。責任を伴わない、感情のままの行動なのです。聖書は、感情のままに生きることを戒めています。

箴言 18 : 2

愚か者は英知を喜ばず、自分の心をさらけ出すことを喜ぶ。

箴言 29 : 11

愚か者は自分の感情をさらけ出す。知恵ある人はそれを制し静める。

そして、それは純潔を汚し、罪を犯す機会を増やすことにつながります。更にいうならば、時間をフルに使って神と人に仕える事ができる、貴重な独身時代を無駄に過ごすことになるのです。それは、お金と時間の無駄遣い、というだけではありません。いずれ結婚する相手にささげるべきあなたの愛を、他の人に分け与えてしまうことになるのです。結婚する時、あなたは伴侶に対してこう言うしかないのです。

「僕の心は全部君のもの……じゃないんだ。前の彼女に三分の一、その前の彼女に三分の一をあげてきた。あ、でも心配しないで。残りの三分の一は君のものだから」

それでも、その人と付き合いたいと思いますか？ もちろんわたしにはそれを止めることはできません。あなたの人生の選択をするのは、あ

なた自身だからです。しかし、今ここで提示されている知恵を受け入れることができるなら、あなたは将来の伴侶に対して堂々と言うことができるでしょう。

「僕の心は全部君のものだよ。今まで、僕は自分の心を誰にだってあげたことなんかない。全部、君にささげるために大切にとっておいたんだ。さあ、受け取って」

コリント I 6 : 12

「わたしには、すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。

さて、はっきりと結婚を意識し、この人と共に生きていきたい、この人に自分の人生をささげたいと思い、そしてさらに結婚の準備ができているのであれば、次のステップに進みましょう。

ステップ3 : 祈り求める

毎日、神の御心を求めて祈りましょう。

「神さま、〇〇〇さんは、わたしの伴侶としてあなたが願っておられる相手でしょうか。もしそうなら、平安のうちに確信を与えてください。もし違うなら、あなたがこの感情を取り去ってください」

祈りの日々を過ごしたら、年上の既婚者である兄弟姉妹（親がクリスチャンであるならば、親がベストです）に話し、一緒に祈ってもらいましょう。もし、祈りの中でこのまま進んで行くことに不安を感じ、相談した兄弟姉妹も、「ちょっとこの話は考え直す必要があるんじゃないか」と言うのであれば、もう一度自分の感情を整理し、やめるべきだと思うなら、はっきりと決断しましょう。

しかし、平安の内に君の心が整えられ、あなたの心を知っている兄弟姉妹にも同じような平安が与えられているなら、レッツゴー！ 「彼女

(彼)」にあなたの思いを打ち明ける時です！

ステップ④：話をしよう

時と場所、伝え方は人それぞれです。流石に電話は……と思ってしまいうことでしょう。どこかで会う約束を取り付けましょう。古風に手紙を送るのも素敵です。ただ、これは交際のスタートではなく、あくまでも「伝える」と言う段階であることを忘れずにおきましょう。

「実は、わたしはあなたとの結婚を考え、祈ってきました。もしできるなら、結婚を前提に、お付き合いをしていただけないでしょうか」と打ち明けるのです。

あなたが慎重に事を進めたいのであれば、「できれば、そちらのほうでも一ヶ月ぐらい祈っていただければ……」と猶予期間を設けるのも手かもしれません。

おまけ①：女性から結婚を前提としたお付き合いを申し込むのってアリですか？

そのようなパターンもありえないことではないでしょう。聖書の中でも、ルツがボアズにアタックしているシーンが描かれています。(ルツ記3章)。

おまけ②：最も理想的だが、現実的には少ないパターン。

それは本人ではなく、彼女(彼)の親に最初にあなたの気持ちを打ち明けることです。「わたしは、あなたの娘さんと結婚を前提に交際したいのですが、許してもらえるでしょうか？」ただ、これはあなたと彼女の親が同じ教会に属していたり、前からの付き合いだったりする場合には限られるでしょう。さらに彼女が親とどのような関係かにもよるでしょう。でも、可能ならチャレンジしてみる価値あります。

また、女性側の場合、自分のお父さんに頼んで、彼に話をしてもらおう、というのも素晴らしい手です。しかし、現実的には難しい事が多いのは確かです。

さあ、どうなるでしょう。考えられるのは三つのパターンです。

・断られる。

もし、相手ははっきりとNOと言うならば、それはそれで受け入れましょう。でも、あなたの中にある思いを無理に殺してしまおうとする必要はないでしょう。もしかしたら、今がその時ではなかった、というだけでいずれはその時が来るかもしれないからです。

・相手が迷ってしまう

なかなか相手が答えを出さないでいるならば、辛抱強く待ちましょう。そして、主が彼女（彼）の心に語りかけてくださるように祈り続けましょう。でも、あまりに長く待つようなのであれば、もう一回会う約束を取り付ける必要があるかもしれないかもしれません。

・「お受けします」

やりましたね！ あーだこーだ言う必要はありません。次に進みましょう！

Part 2 交際期間

英語では、この時期をコートシップと呼びます。友達以上、婚約未満の状態です。大切なのは、ふたりは夫婦ではないということ。もちろん特別な関係ではあるのですが、あくまでも友人関係の域を出ないものであることを肝に銘じておきましょう。相手に対して敬意を払い、最高の

友達として付き合ひましょう。

①清さの中で

さて、この期間は何よりも清く歩むことが大事です。もちろん、セックスは厳禁。できれば、肉体的な接触は最小限にとどめるべきです。なぜかって？ 楽しみは結婚の後にとっておいた方がいいですし、それにもしこの関係が結婚にまで導かれなかった場合（そのような場合も覚悟しておきましょう）、余計な思い出を残さずに済むからです。

清さとは、肉体的な事だけではありません。言葉や態度においてもそれは重要です。相手の心を操作しようとしたり、自分の心をさらけ出し過ぎたりする言葉や態度は控えましょう。

②相手を知る

この期間の目的は、相手をよく知ることです。今までは気付かなかった側面が見えてくるかもしれません。もしかしたら、それはあなたにとって嫌なものであるかもしれません。もしくは、相手がずっと抱えてきた痛みや傷かもしれません。もし、そのようなものが出てきたとしても、慌てないようにしましょう。感情や状況、相手の言葉や態度や過去にとられるのではなく、君が神の前で抱えている確信を大切にしましょう。そして、できれば二人で祈る時間を持ちましょう。

③決断の時

お互いを知り、確信が深まったならば、いよいよ決断の時です。それまでに何カ月か必要でしょう。時には一年ぐらいかかるかもしれません。「その時」はいつなのか、主に尋ね求めましょう。そして、頼りにしている年上の兄弟姉妹に助言を仰ぎましょう。そして、ふさわしい時が来ていると感じるならば、「僕と結婚してもらえますか？」と尋ねましょう。婚約指輪を手にはひざまずく儀式にチャレンジしたいなら、どうぞご自由

に。友人達に協力してもらって、フラッシュモブをしたければそれもご自由に(笑)。聖書にはプロポーズの方法まで書いてはいないのでから。

さて、このプロポーズは100%断られない、という前提のもとに行われることに注目しましょう。というのは、それまでに二人は共に過ごし、この人が結婚相手間違いなし、という確信を得ているのですから。

もしその確信を得ることができないなら、交際を終わらせる決意が必要です。

Part 3 婚約から結婚式まで

①やはり、清さの中で

くどいようですが、これも最高の結婚をするためです。二人はまだ夫婦ではありません。夫婦のような責任を相手に要求しないようにしましょう。肉体的な接触をなるべく避け、あくまでも最高の友達として付き合いましょう。

②報告と表明

生涯添い遂げる相手が決まったことを、家族、兄弟姉妹に報告し、教会で婚約式をしてもらいましょう。婚約式は、教会に対して「この二人は結婚の約束をし、結婚に向けて進んでいきます。二人のために祈り、応援しましょう」と表明する良い機会です。なので、ささやかなものでかまいません。

ただ、二人と牧師さんの三人だけ、なんて婚約式はたいして意味がないことを覚えておきましょう。婚約は神の前での契約ではなく、人々に対する表明の機会です。二人の関係を公にすることで、皆に祈ってもらえるし、余計な男女関係のトラブルを避けることができます。(あなたか、あなたのフィアンセを密かに思っていた人もいるかもしれません。その人たちもきっぱりとあきらめることができます)

③結婚の準備

無理のない範囲で式の日時を設定しましょう。ここからはかなり忙しくなります。結婚式の準備、新居の準備、やることは山ほどあるのです。そしてその中で、いつもの仕事と日常生活があります。苛立つことも多いでしょう。喧嘩だって起こるでしょう。相手の罪や弱さが見えることもあるでしょう。ここで愛と忍耐と誠実さが試されます。大切なのは、へりくだって相手を尊敬し続けることです。

そして、兄弟姉妹に応援を頼みましょう。兄弟姉妹も二人を祝福したいと思っているでしょうから、喜んで協力してくれるはずですが、たいていお金をかけられないとしても、兄弟姉妹の協力があれば、愛が溢れる素晴らしい結婚式になるでしょう。

お金がないから、家族と親族だけで……と思う気持ちもあるかもしれませんが、しかし、あえてお勧めします。ぜひ、兄弟姉妹に参列してもらってください。なぜなら、健全な結婚生活には教会の助けが不可欠だからです。その門出を、教会に共に祝ってもらう事は、お金以上の大きな価値があります。

④スタートライン

結婚する事を世間では「ゴールイン」なんて言ったりしますが、全くもってナンセンスな言葉です。ゴールではなく、スタートだからです。二人の関係はやっと始まったばかりです。神と人の前で契約を結び、これからは二人で神に仕える人生を歩むのです。なので、結婚式までの準備で疲れ切ってしまったとしても、それは一時的なものであると理解しましょう。大切なのは式ではなく、その後の二人（とイエスキリスト）の生活なのですから。

さて、上記の流れは、あくまでも理想の流れです。実際には失敗や痛

みを伴う事もあるでしょう。ただ、清くあってください。神の前にも、人の前にも、清い歩みをしてください。失敗したら悔い改め、誠実に歩み続ける人に、神は恵みを与えてくださいます。

第二章

結婚の魅力

Part 1 結婚の目的

なぜ結婚する必要があるのでしょうか。その問いに対する答えは、聖書から簡単に導き出せます。

創世記 2：18～24

主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」……人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。「ついに、これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉。これをこそ、女（イシャ）と呼ぼう。まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。

さて、ここに書かれていることは単純です。つまり、人間には結婚が必要である、と神が定められたのです。そして、神が必要だと言われることは、わたしたちにとって祝福であるはずですが、つまり、人は神の定めに従うため、そして神の祝福を受けるために結婚するのです。それが結婚する理由であり、目的なのです。

聖書はさらに進んで、その結婚が神の愛と真理の深さを表すと言っています。

エフェソ5：31～33

「それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。」この神秘は偉大です。わたしは、キリストと教会について述べているのです。いずれにせよ、あなたがたも、それぞれ、妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬いなさい。

キリストがどれほど教会を愛しておられるのか、その奥義を表すのが、夫婦の関係です。結婚によって、人は神の愛を知り、キリストの愛を知り、その関係の奥深さを知るのです。

つまり、結婚は軽々しいものではなく、厳かなものです。恋愛の延長線上にあるものではありません。人生における決断、神の前で恐れおのきつつ結ぶ契約、生涯をかけての献身なのです。

Part 2 結婚する事で何を得るのか

さて、結婚生活は実に豊かな実りをあなたの人生にもたらしてくれます。そして、主に従い、お互いを尊敬し、愛し合う夫婦は、子どもたちに、教会に、地域社会に対して神の愛を証できます。

でも、そのような言い方は何か漠然としています。なので、今ここでわたし自身が10年間の結婚生活で得た20の恵みを分かち合いたいと思います。

①祈りが強まる。

毎日共に祈るパートナーがいる、というのは、素晴らしいことです。イエスキューマは、二人、三人と集まって祈るなら、私も一緒にいる、と言ってくださっています。

②決断がより容易になる。

夫婦で祈って一致したことなら、確信が強まります。ひとりの時より決断が容易なのです。

③愚かな選択を回避しやすくなる。

もちろんこれはきちんと夫婦で相談している、という事が前提になります。自分の意見だけでなく、伴侶の意見に耳を傾けることで、愚かな選択を回避できます。

④はっきりとした人生の目的ができるので、人生の方向性で悩む必要がなくなる。

結婚しているのに、人生の目的で悩んでいるとしたら、はっきり言っておかしいとわたしは思います。夫婦として愛し合う、という明確な目的があるのですから。

⑤心の傷や弱さが癒され、新しくされる機会が多くなる。

伴侶の前では、自分の傷や弱さを隠すことはできません。でも、これは結婚の大きな恵みのひとつなのです。自分の状態が神と人の前であらわにされることによって、神の助けを求め、癒しを体験することができるのです。

⑥浪費から守られる。

独身の時は、好きなようにお金を使っていたでしょう。しかし、結婚すれば、財産は共有になります。自分だけのお金ではないから、好き勝手にお金を使うことは無くなります。

おまけ：夫婦別会計は絶対にやめてください！ 結婚の意義が薄れてしまいます。結婚する事によって「金銭面で自分の欲を捨て

る」という大事な訓練を受けることができるのです。

- ⑦ (夫は) 自分には絶対に裏切らない味方がいる、という現実励まされる。(妻は) 自分を絶対に守ってくれる人がいる、という現実励まされる。

伴侶が病弱であろうとも、これは変わりません。お互いに対する信頼が強まるにつれ、それぞれの存在（行いではない）を力強く感じることができるようになります。

- ⑧ 実際、ふたりでいちゃいちゃと過ごすのは楽しい。

単純な事ですが、これも結婚生活の大事な要素であり、素晴らしい恵みです。セックスを含め、愛する者との触れ合いは癒しと慰め、そして力を受ける時となります。

- ⑨ 実際、美しい妻がそばにいるのは誇らしい。

実際、頼もしい夫がそばにいるのは誇らしい。

主が「人がひとりでいるのはよくない」と言われた理由がよくわかるようになるでしょう。伴侶の容姿が人と比べてどうなのか、ということは大して重要ではありません。

- ⑩ 罪から守られやすくなる。

伴侶はいい意味での監視役です。わたしたちは、ひとりでいるとより罪を犯しやすいのです。

- ⑪ 愛する事を学ぶので、他の人に愛を示しやすくなる。

伴侶とは、一番愛しやすい相手であると同時に、一番愛しにくい相手でもあります。人は一番近い相手に、自分の一番醜い部分を出すものだからです。でも、その中で神の恵みに頼り、悔い改めていけば、

結婚生活は素晴らしい愛のレッスンとなり、さらに多くの人に愛を示せるようになるのです。

⑬料理、家事、育児のスキルがアップする。

必然的にしなければならない事が増えるため、技術的にも大いに成長できます。

⑭早寝早起きになり、生活が安定する。

ある意味、自堕落な生活から守られます。

⑮コミュニケーション能力がアップする。

夫婦はとにかく話し合わなければなりません。傷ついたとしても、向き合わなければなりません。この実践によって、コミュニケーション能力が高まります。

⑯知識、知恵、価値観の幅が広がり、違う価値観に関して寛容になれる。

それまでは一人分だった知恵と知識が二人分になります。また、全然違う存在である妻を受け入れる、夫を受け入れる、という訓練を通して、自分とは違う価値観を持つ人を受け入れやすくなります。

**⑰仕事に関して、余計なプレッシャーを負わなくなる。(仕事より大事な
ものがあるから)**

結婚して、ほんとうに家族と向き合おうと思うと、それは簡単ではない、仕事以上の責任である事に気がきます。その結果、仕事は人生における第一のミッションではないとわかり、仕事のプレッシャーを背負いすぎる必要がなくなるのです。むしろ、背負えなくなる、という言い方が正しいかもしれません。

⑰ある意味、社会において「ハク」がつく。

結婚し、しっかりと家庭を治めているというだけで、信用されやすいと言うのは確かにあります。(ただし、これは付加価値であって、絶対的に重要なものではありません)

⑱教会を祝福できる。

愛し合っている夫婦は、教会にとって大きな祝福となります。何ができる、という事はあまり関係がありません。その存在が教会の力となるのです。

⑲教会の中の別の夫婦の問題に関われるようになる。

問題を抱えている夫婦は必ずいます。彼らを助けてあげられるのは、愛と力に満ちた夫婦なのです。

⑳神の民を自然発生的に増やせる。

神に従い、愛し合っている夫婦から生まれた子どもたちが教会に加わっていくことがどれほど力強いのか、考えてみてください！

さて、この他にもまだたくさん恵みがあるでしょうが、今はここまでにしておきましょう。簡単に述べてきましたが、これらの恵みは結婚したら自動的にやってくるものではありません。時には傷つけ合い、涙にくれながらも、夫と妻、それぞれが神を畏れ、御言葉に従い、神に助けを求めて叫び、へりくだる中で、神が与えてくださるものなのです。献身に次ぐ献身、謙遜に次ぐ謙遜。それが結婚生活の全てと言っても過言ではありません。そのように主に従う者を、主は必ず憐れんでくださいます。

第三章

独身という生き方

さて、結婚は確かに神が定めた制度であり、祝福なのですが、イエスさまは厳かにこうおっしゃっています。

マタイ 19 : 2

「天の国のために結婚しない者もいる。これを受け入れることのできる人は受け入れなさい」

また、パウロもこう言っています。

コリント I 7 : 7

わたしとしては、皆がわたしのように独りでいてほしい。

この章では、独身の人生を検証してみましょう。

Part 1 独身の理由

独身でいるには、いくつかの理由があるでしょう。

①病気や障害などにより、結婚することがどうしても難しい。

このような境遇の人たちに、失礼にならないように言葉を贈るとするならば、神の特別な選びがあなたの上にある、ということです。神はあなたの人生に計画を持っておられます。

I コリント 1 : 27

ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。

②結婚を望んではいるけれども、機会がない。もしくはそのために努力をしたり、心を向けたりする余裕がない。

この境遇にいる人たちにも、慎重に言葉を選ぶ必要があるでしょう。様々な事情で、なかなか結婚に導かれないもどかしさや痛みを感じているかもしれません。わたしは単純な事だけを言いたいのです。今置かれている場所で、精一杯神を愛し、神に仕えてください。そして、聖書のこの約束を信じてください。

マタイ 6 : 33

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

この約束は確かです。また、わたしはあなたの結婚の手助けをすることを望みます。ぜひ巻末に記されている電話番号、もしくはメールアドレスまで連絡をください。わたしは結婚を望んでいるクリスチャンの男女を何人も知っています。その中に、主の御心が隠れているかもしれません。

③単純に結婚に魅力を感じない。

④主に仕えるために、あえて独身を選んでいる。

この二つのグループの人たちに向かっては、わたしはあえていろいろと

突っ込んでみたいのです。その明確な理由を言葉にしてみしてほしいのです。それは、積極的な理由でしょうか。つまり、

- ・イエスさまを愛する事に喜びを感じているので、もうそれで十分、人との結婚はどうでもいい。
- ・宣教の働きのためにはむしろ独身でいたい。

もしくは、消極的な理由でしょうか。

- ・なんか、結婚ってめんどくさそう。
- ・いい夫婦なんて滅多に会わない。むしろ、悪いイメージしかない。
- ・むしろ人生の重荷だ。
- ・結婚の事を考えると、恐れを感じる。
- ・独身のままのほうが気楽でいい。

そして、さらに突っ込みたいのですが、本音としては消極的な理由を持っていながら、積極的な理由を隠れ蓑し、本音を隠している、なんてことはないでしょうか？

(もちろん、ないならそれでいいのですが、念のため自分の本音を確認してみてください)

Part 2 使命か、傷か、それとも無責任か？

さて、あなたがはっきりと独身で主に仕えるという使命を持っているのなら、それは素晴らしいことです。わたしはイエスさま、パウロを初めとして、独身で主に仕え続けた主のしもべたちの名前を何人も上げることができます。修道士として、伝道者として、また、貧しい人たちに仕える宣教師として、多くの男女が人生を捧げてきました。あなたもそれに倣う者となるなら、神が大いに祝福し、用いてくださるでしょう。

ただ、独身として生きるという明確な使命を神から受け取っておらず、

消極的な理由から独身の人生を選んでおり、結婚に向けて祈ることも、努力する事もしていないならば、ちょっと立ち止まって考えてみてください。その背景にはどんな心があるのでしょうか。

①問題の多い家庭に育ったため、結婚に対する良いイメージがわからない。

これは、傷から来るものです。その傷は処理されているのでしょうか。両親を赦しているのでしょうか。両親に対する罪や、裁く心は赦されているのでしょうか。もし、傷や罪がそのまま残っているとすれば、牧師さんや兄弟姉妹の助けを受けることを強くお勧めします。カウンセリングを受けたり、傷の癒しのために祈ってもらったりする時間が必要かもしれません。

②性的虐待の経験、もしくは歪んだ性体験、歪んだ性のイメージに捕らわれ、異性に対して嫌悪感や罪悪感がある。

これも過去からくる縛りです。あなたは性についてどのようなイメージを持っているのでしょうか。そして、そのイメージはどのように形成されたのでしょうか。人間の性は神が人に与えた賜物であり、決して嫌悪するものではない、という聖書的で健全な性のイメージを持つことが難しいかもしれません。また、自分が受けたひどい体験のトラウマを癒してもらえるように祈ったことはあるのでしょうか。神にすら打ち明けたことがない、ひどい体験を、光の元にさらしたことはあるのでしょうか。

また、自分が繰り返してきた愚かな性体験の罪悪感から抜け出せないでいるのかもしれません。キリストの十字架による赦しと癒しをちゃんと受け取っているのでしょうか。信頼できる兄弟姉妹に打ち明け、共に祈ってもらっただけでも、大きな癒しの時になるはずです。記憶と心を縛る過去をキリストの十字架によって打ち砕きましょう。

③単純に結婚が面倒くさいと感じる。独身のまま気楽に生きるほうがい

い。

神はあなたに選択する意思を与えられました。ですから、あなたが独身のまま気楽に生きていきたい、というなら、神はそれを止めはしないでしょう。だが、ちょっと考えてみてください。神が、あなたに独身ではなく、結婚を望んでいるとしたら、どうでしょう？ あなたはその使命に応える心積もりがあるでしょうか。もし、その使命に応えたくない、というのであれば、あなたは二つの責任を軽んじることになるのです。一つは、神が負ってほしいと思っておられる責任。もう一つは、神があなたと出会わせようとしておられる伴侶に対する責任です。この責任を拒むなら、あなたは神の使命と、神の祝福を拒むことになります。

神は、あなたを通して、一人の異性を祝福し、またその異性を通して、あなたを祝福しようと願っておられるかもしれないのです。どうか、「気楽な方がいい」という、無責任な考え方で独身を選ばないでください。独身を選ぶなら、結婚相手を選ぶときに「神さま、ほんとうにこの人でいいのでしょうか？」と真剣に祈るぐらい、「神さま、わたしは独身でいいのでしょうか？」と心を注いで祈ってほしいのです。そして、独身としての明確な使命を感じないならば、結婚に向けて祈り、努力してみたいのです。そうしなければ、独りよがりな、無責任な人生を歩むことになってしまいます。

ローマ 13 : 7

すべての人々に対して自分の義務を果たしなさい。

第四章

様々な疑問に答える

問1：なぜそこまで恋愛を戒めるのですか。

答1：結婚を目指さない恋愛が、神に従うことを願う若者たちに良い利益をもたらすとは、わたしはどうしても思えません（クリスチャンでなくても同じです！）。罪を犯し、心を汚し、神から遠ざかる機会が増えるだけであると考えます。なので、男女交際は、結婚を前提にしたものであることが望ましいと考えています。

聖書には、男女交際、結婚のステップなどについて、明確な記述がありません。なので、これは教会ごとによって異なる解釈があるのが現実でしょう。しかし、わたしはこの「結婚を考えない恋愛をやめ、真実な結婚を目指す」というのは、「自分を捨てて他人を愛する」という聖書の根本的な教えに合致していると考えています。

また、わたしは結婚していない男女が自由に付き合うことに反対しているだけであり、恋愛感情そのものを否定しているわけではありません。恋愛感情は神が人間に与えた賜物であり、結婚のために必要なものであると理解しています。

問2：未信者との結婚をどう思いますか。

答2：聖書にはっきりと未信者との結婚を禁じる、という記述を見付けることはできません。一つの限定された形として、次の言葉があります。

コリントⅠ 7：39

妻は夫が生きている間は夫に結ばれていますが、夫が死ねば、望む人と再婚してもかまいません。ただし、相手は主に結ばれている者に限ります。

これは再婚に関する言葉であり、初婚の場合もこの言葉が適用されるかどうかは意見が分かれるところです。さらに、旧約聖書において異民族との結婚を禁止する言葉を、教会にまで適用すべきなのかどうか、も同じく意見が分かります。

しかし、わたしはあえてこうチャレンジしてみたいのです。「**信仰のない人々と一緒に不釣り合いな軛につながれてはなりません。正義と不法とにどんなかかわりがありますか。光と闇とに何のつながりがありますか（コリントⅡ 6：14）**」と書かれている聖書信じ、その聖書を書かれた神を愛するクリスチャンが、未信者と結婚したい、と思うものなのでしょうか？ わたしには、その感情は理解できませんし、不自然に感じてしまいます。それが主に従う選択であるとは、どうしても思えないのです。もちろん、わたしはクリスチャンと交際したことによって信仰に導かれた方を何人も知っています。神は憐み深い方ですから、彼らを救われました。しかし、それは神の憐みのゆえであり、未信者と交際することを選んだクリスチャン達の心が、ほんとうに神の御前で清いものであったのかどうか、は別の話ではないかと思うのです。わたしは、教会の独身の男性達にこう言ったことがあります。

「未信者を好きになることもあるかもしれない。ただ、皆が未信者の女性を連れてきて、『この人と結婚したいんですけど』と言っても、僕はその彼女がクリスチャンになるまで、結婚式の司式をするつもりはないよ。君が本気で彼女と結婚したくて、彼女に救

われてほしいなら、断食して、徹底的に祈って、彼女の魂を勝ち取ってごらん」

⇒未信者を好きになった場合、どうすればいいでしょう。

それはあり得ることです。その感情は善悪で判断する事ではないでしょう。ぜひ、その人のために祈ってください。そして、福音を伝えてください。主が導かれるなら、その人が救われ、そして、あなたと結婚する日が来るかもしれません。

⇒未信者に交際を申し込まれた場合、どう対応すべきでしょうか。

これもありえることです。しかも、あなたの側でも気になっている人から交際を申し込まれたりするものなのです。できれば、交際どうこうの前に、自分はクリスチャンであることを告げ、教会に誘ってみましょう。そして、教会に来て、牧師さんから聖書の学びを受けるようにチャレンジしてみましょう。それを断るようならそれまでですが、もし本気で教会に来るようなら、主が彼（彼女）に働こうとしておられるのかもしれません。そして、彼（彼女）が変えられるまで、彼とは友達で過ごし、特別な関係になることは避けるのが賢明でしょう。

⇒未信者とのお見合いを勧められた場合、どう対応すべきでしょうか。

神の前に祈り、断るべきだと思うなら断ってもいいでしょう。しかし、チャレンジしてもいいぞと思うなら、これも上記の質問と同じスタンスでいいでしょう。自分はクリスチャンであると告げ、

教会に誘ってみましょう。そして、交際と結婚はクリスチャンになってから、と言ってみましょう。

問3：同性婚についてどう思いますか。

答3：わたしがどう思うか以上に、聖書が何と言っているかのほうがより重要です。聖書は明らかに、同性愛は罪であると言っています。

ローマ1：26

それで、神は彼らを恥ずべき情欲にまかせられました。女は自然の関係を自然にもとるものに変え、同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうしで恥ずべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています。

コリントI 6：29～30

正しくない者が神の国を受け継げないことを、知らないのですか。思い違いをしてはいけない。みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色をする者……は決して神の国を受け継ぐことができません。

なので、同性婚は罪です。しかし、同性愛者を教会から追い出すとか、彼らは汚れた連中だから彼らと付き合うべきではないとか、そのようには考えるべきではありません。主はすべての人の救い主であり、すべての人を愛しておられるからです。なので、教会は同性愛者をも愛するべきです。しかし、同性愛は罪である、という点において、教会は妥協してはなりません。

問4：どうやって結婚相手を探せばいいのでしょうか。

答4：結婚適齢期なのに相手がいない、という話は良く聞きます。私が強くお勧めするのは、ぜひ既婚の兄弟姉妹にあなたの気持ちを打ち明けることです。結婚を望んでいる自分の気持ちを知ってもらい、だれかふさわしい人がいたら紹介してもらえるように頼みましょう。独身のクリスチャンがいないわけではありません。事実、都会では、若者が大勢救われている教会が増えています。問題は、教会間の交わりが少ないことです。

また、ぜひわたしにあなたの結婚の手助けをさせてください。第三章でも触れましたが、巻末に載せてある連絡先に連絡をください。わたしは独身のクリスチャンの男女をかなり多く知っています。

問5：独身の間、特に心がけるべきことについて教えてください。

答5：独身であろうと、既婚であろうと、人生の最大にして最高の目的は変わりません。

マタイ22：37～38

イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である」

主を愛し、清く生きる、という単純な使命を忘れないでください。そして、独身者は、既婚者よりも、より多くの時間を教会への奉

仕、また宣教のために使うことができます。その時間を生かし、神の国を前進させることに力を惜しまないでください。

問6：結婚の準備ができていない時期は、どのように異性と関わればいいのかのでしょうか。

答6：聖書の単純な原則に従いましょう。尊敬する事、自分を捨てて愛する事、受け入れる事です。自己中心な態度を捨てましょう。情欲の対象として、また自分の恋人候補として気を引くような言葉や行動を慎みましょう。また、恋愛を避けるために、必要以上に危険視する必要はまったくありませんし、すべきでもありません。自然に関わりましょう。ただ、自分を守るため、また異性を心から尊敬するために、いくつか注意すべき点があります。

①体の触れ合いは、握手など最低限にとどめる。

「男は女に触れないほうが良い（コリント7：1）」と聖書は言っています。基本的には触れないようにする必要がありますでしょう。触れ合うことによって、余計な親密さが増し、結婚の準備ができていないのに、余計な情熱に振り回される可能性があります。（ただ、教会それぞれに文化があります。握手すらしない教会もあれば、ハグをし合う教会もあるでしょう。それぞれの文化は尊重されるべきです。ただ、そこに何かしらの情欲を掻きたてる動機が存在するならば、文化も見直されるべきだと思います）

②男女二人きりで祈ることはしない。

共に祈るのは素晴らしいことですが、二人きりで祈ると、心と

霊がひとつになります。結婚生活ではそれは恵みとなりますが、結婚の時期ではない独身者にとっては、不必要に感情が高ぶる原因となりえます。

③その他、「二人きり」になるような状況はなるべく避ける。

これも誘惑を避けるためです。わたしたちは共に主のために働く兄弟姉妹ですが、弱さを抱えた罪人であることを忘れないようにしましょう。

(おまけ：わたしには牧師としての務めがありますが、女性と二人っきりで聖書の学びや、カウンセリングをすることをしません。必ず誰か他の女性に同席してもらいます。これも誘惑を避けるための措置です)

エフェソ 4 : 27

悪魔にすきを与えてはなりません。

④必要以上にお互いを異性として意識しすぎないようにする。

聖書は、わたしたちは兄弟姉妹であると言っています。自分のお兄さんや妹を、異性として意識する事が少ないように、自然に神の家族としての歩みができればベストです。ただ、人の弱さと、人に誘惑するサタンの存在を忘れないようにしましょう。

(以上の事はあくまでも提案であることを心に留めてください。前述したように、それぞれの教会の文化が尊重されるべきです)

問7：自分が全く好きでもない相手に結婚を申し込まれた場合、どう対応すべきでしょうか。

答7：それはとても面食らう出来事ですが、同時に祈りやすいパターンでもあるのです。なぜなら、こちら側としては恋愛感情がないわけですから、とても冷静な気分で祈ることができるからです。その中で、主の御心を尋ね求めてみてください。

少し複雑になるとすれば、あなたが他の誰かを好きになっている場合です。ここでもまた祈りが必要です。特にあなたに結婚を申し込んできたその相手が主を愛し、成長するために努力しているような、素敵な異性だったらなおさらです！ 自分の今の感情をもう一度整理できるように、祈ってみましょう。

このような状況は、自分の感情を見つめ直し、自分の結婚観を確認し、そして主の御心を求めるというとても大切な訓練の時です。慌てず、騒がず、自分の心と、主の心を見つめられるように祈ってください。

でも、中にはあまり祈る時間を必要としないケースもあります。その相手があまりに未熟であり、結婚の準備もできていないのに、感情のままに突っ走っているとしか思えないような場合です。誠実にお断りしましょう。そしてその彼（彼女）をよく知る兄弟姉妹に相談し、その後のフォローを頼みましょう。

「結婚があなたの人生にやってくる」

著者：清野 基

発行：下諏訪キリスト教会

※この冊子に関して疑問や意見があれば、ぜひ連絡をください。批判も含めて、著者は読者からの言葉を待っています。また、結婚相手探しを手伝ってほしい方も大歓迎です。気兼ねなく連絡をください。連絡先は以下の通りです。

：下諏訪キリスト教会：

〒393-0074 長野県諏訪郡下諏訪町緑町328

TEL&FAX 0266-27-3862

shimosuwa_church@ybb.ne.jp

<http://shimosuwachurch.net/>